



51

## 昔懐かしい福武線の木造駅舎

越前市北府、鯖江市神明町など

20km 余りの私鉄ローカル線に乗って小さな旅に…。名古屋や岐阜で活躍していた懐かしい電車がのどかな田園地帯を丁寧に一駅一駅客を乗降させながら走っていく。レトロな木造駅舎を見たくて途中下車。見どころいっぱい。



北府駅

越前市中心部にある福井鉄道福武線の北府駅は、大正 13 年（1924）に建てられた、大正時代そのままの姿を残している木造建築の駅舎です。

駅舎に入ると、木枠の窓ガラスや古びた木製のベンチ、むき出しの蛍光灯などがあり、レトロな雰囲気味わえます。携帯電話会社のテレビコマーシャルの撮影舞台になったことでも有名です。



駅舎内部



北府駅に近接する木造の車両基地



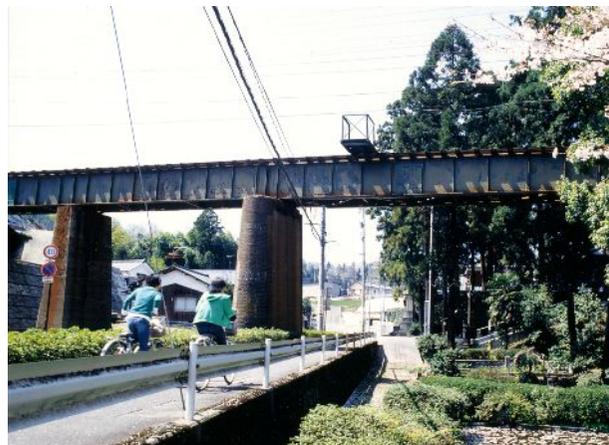
神明駅①

鯖江市神明町にある神明駅は、大正 13 年（1924）に建てられた木造平屋建ての駅舎です。

ここはかつて、陸軍歩兵第 36 連隊の駐屯地があり、当時の駅名は「兵營」といい、有事には多くの兵士がこの駅から出征しました。

鯖江市内の市道に架かる鉄道橋は、大正 13 年頃に建築されたもので、無骨なリベットやコンクリート橋脚と、元三大師が開いた中道院の杉の大木が絶妙のコントラストを醸しだしています。

中道院は「すりばちやいと」のお寺として有名です。



中道院横の鉄道橋（鯖江市長泉寺町）②



中道院のすりばちやいと③



写真①～③は鯖江市提供



越前市京町、鯖江市旭町など

歴史薫るレトロな建物や懐かしい風景に時々出会ったりすると、まち歩きが一層楽しくなる。戦災・震災に遭わなかった武生と鯖江、ゆっくり歩いてみたいまちだ。



丈生幼稚園（旧県警察部庁舎）（国登録文化財）

戦災、震災に遭わなかった武生・鯖江のまちなかを散策すると、明治建築からモダニズムまで、レトロな洋風の建物が各所に見られます。

丈生幼稚園は、和風と洋風の意匠が混在した建築物で、明治 32 年頃に福井市に建築された福井県警察部庁舎が大正 13 年に引接寺境内に移築され、現在は園舎として利用されています。

武生公会堂記念館は、昭和 4 年に完成した建築物で、塔屋のランドマーク性を強調する垂直線や、楕円形を用いた 1 階玄関などに特徴があります。現在は越前市の博物館施設として利用されています。



武生公会堂記念館（国登録文化財）<sup>①</sup>



M工房（旧武生郵便局）（国登録文化財）<sup>②</sup>



旧鯖江地方織物検査所（国登録文化財）<sup>③</sup>



恵美写真館洋館（国登録文化財）<sup>④</sup>

M工房（旧武生郵便局）は大正 3 年に建築され、新庁舎ができるまで約 15 年間使用されました。近年少なくなった下見板張りの洋風建築で、屋根の降り棟鬼瓦に「〒」マークがあります。現在は建築設計事務所（M工房）兼住宅として利用されています。

旧鯖江地方織物検査所は人絹織物検査所の事務所として昭和 10 年に建築されました。洋風木造 2 階建てで内部には当時のカウンターがそのまま残っています。福井県の近代繊維産業の歴史を物語る数少ない遺構として貴重な存在です。現在は、さばえ現代美術センターとして使用されています。

恵美写真館洋館は明治 38 年に建築された、寄棟造、2 階建ての建物で全体的には和風ですが、玄関ポーチなど随所に洋風の意匠を取り入れています。表門は伝統的な薬医門の形式ですが、アーチ形の屋根や正面の虹梁等に洋風の意匠を取り入れた門です。



写真①②は越前市、③④は鯖江市提供



## 菊の香漂う越前の国府 武生

越前市京町、蓬萊町など

野口雨情が「二万石でも武生は城下」と謡った武生は、「大化の改新」の頃から約1300年近くも越前国府が置かれた歴史漂うまちだ。旧所名跡も多く、300近くの寺社が鎮座するという。



寺町通りの町並み

慶長6年(1601)、本多富正は、福井藩主結城秀康より3万7千余石を拝領し府中城主となると、戦乱により荒廃した町の中心に北陸道を通し、街道沿いに町屋、東に武家屋敷、西に寺社を配して、城下町を整備するなど現在の越前市の基礎を築きました。

その面影は今も残り、寺町通りと呼ばれる京町界隈には、由緒ある神社仏閣や、昔ながらの町屋が数多く点在し、落ち着いた風情を感じさせてくれます。



北陸道沿いの町並み



蔵の辻 市 (3~12月の毎月第1日曜日開催) ①

白壁の蔵が立ち並ぶ「蔵の辻」と呼ばれる一角は、大正から昭和初期に建てられた店舗や蔵を再生したものです。毎月第1日曜にはフリーマーケットの「蔵の市」、第3日曜には骨董市の「参の市」が開催され、多くの客でにぎわいます。

北陸道沿いには刃物を始めとする卸問屋や商店などの伝統的な建物が今でも数多く残っています。

北陸道から程近くにあるタンス町通りでは、幕末から明治初期にかけて多くの指物師が活躍しました。和洋家具や建具商などが軒を並べる通りには、当時のタンス町の特徴を残した店が残っています。

毎年10月上旬から11月上旬にかけて、北陸の秋の風物詩「たけふ菊人形」が武生中央公園において開催されます。大菊、小菊、懸崖、盆栽菊など10,000鉢におよぶ菊花が咲き誇り、菊の香に包まれます。



タンス町通り 屋台まつり「昭和の花嫁行列」 ②



たけふ菊人形「菊人形館」 ③





# 1500年の伝統 越前和紙の里

越前市大滝、岩本など

昔ながらのたたずまいを見せる全国一の和紙産地「五箇地区」。越前和紙を代表する楮100%の「生漉奉書」は、どんなに引っ張っても破ることは難しいという。1500年の歴史に底力を感じる。



伝統工芸 越前和紙  
手漉き和紙職人 岩野市兵衛氏（人間国宝）

越前市の五箇地区は、瓦屋根の伝統的民家が集積し、背後の山並みと調和した緑豊かな集落景観を形成しています。

五箇地区（不老、大滝、岩本、新在家、定友）は、和紙の伝統工芸が発達し、日本一の手漉き技術を誇ると言われ、和紙の里とも呼ばれています。

越前和紙の歴史は古く、今から1500年ほど前、この村里の岡太川の上流に美しい姫が現れて「この地は清らかな水に恵まれているからこの水で紙漉きをして生計を立てよ」と、ねんごろに紙漉きの技を里人に教えたといま

す。この教えを受けた人々は、この姫を「川上御前」とあがめ奉り岡太神社（大瀧神社）を建ててお祀りしました。



大瀧神社・岡太神社 本殿・拝殿（国重文）



緑豊かな和紙の里通り<sup>①</sup>



神と紙の祭り（県民俗文化財、毎年5月3～5日開催）<sup>②</sup>  
背後の建物は「卯立の工芸館」（国登録文化財）



秋葉山から眺めた大滝の家並み<sup>③</sup>



伝統的民家が建ち並ぶ五箇地区<sup>④</sup>



写真①～④は越前市提供

越前和紙は、日本最初の紙幣とされる「福井藩札」に使われました。また、明治新政府が発行した「太政官札」にもその品質の高さから越前和紙が採用されました。

毎年5月3日から5日にかけて、神と紙のまつりが開催されます。紙祖人が鷲輿丁番と呼ばれる若集の担ぐ神輿によって奥の院から里宮に降臨され和紙の里を巡行します。期間中、和紙の里通りでは、華万灯の飾り付けや越前和紙・大掘り出し市などで賑わいます。

秋葉山からは大滝の家並みが一望でき、瓦屋根の建物が集積しているのが特徴的です。

また、妻入り民家の前後に「うだつ」を上げた独特の形態の民家も残っており、「和紙の里通り」にある「卯立の工芸館」は、「うだつ」の形態をとる紙漉き家屋を移築したものです。



# 小次郎と長寿の水の伝説 水間谷

みずまだに

あかたに  
越前市柳元町、赤谷町など

小次郎生誕の地とされる水間谷には、県外の人も水を汲みに来る「赤谷の水」がある。癌の予防に良いというので別名「長命水」と呼ばれるそうだ。夏は涼を求めて「柳の滝」にも足を伸ばしてみたい。



柳の滝(3) (布滝)

剣豪佐々木小次郎は越前市今立地区の水間谷で生まれたと伝えられています。公園の先3km、水間川の支流、岩窟谷川沿いを権現山(標高565m)へ登っていく途中にある柳の滝は、大小5つの滝で成り立っており、伝説によると、小次郎がこの滝で「ツバメ返し」の秘剣を編み出したと言われ、その大瀑布は見るものを圧倒します。



柳の滝(1) (不動滝)



柳の滝(2) (お釜滝)



柳の滝(4) (窓滝)



柳の滝(5) (夫婦滝)



小次郎公園<sup>①</sup>

生家と言われている高善寺に隣接する小次郎公園は、小次郎の像をシンボルに、池や石舞台などが設けられ、さまざまな桜の木が植えられており、情緒豊かな雰囲気にも包まれています。

越前市今立地区の東側にある赤谷集落の東側の山すそには「赤谷の瓜割清水」があります。1000年も前から湧き続ける長寿の名水として知られ、週末には県内外から多くの方が水を汲みにきます。



赤谷の瓜割清水

赤谷集落の中心には水間川の支流の赤谷川が流れていますが、川の北側には道路がなく、北側に住む人にとって、一家に一橋が常識となっています。



赤谷川にかかる各戸専用の橋<sup>②</sup>





## 万葉の恋物語の舞台 あじまの 味真野

越前市味真野地区

福井育ちの天皇、継体天皇が即位前に住んでいたと伝えられる味真野は、万葉集に詠われた恋の舞台だ。味真野小学校の桜、治左川の清らかな流れ、歴史ロマンの演出も見逃さない。



味真野小学校の校庭中央の桜の大木（市天然記念物）



越前の里 味真野苑

奈良時代、味真野の地に流された  
中臣宅守なかとみと聖武天皇に仕える女官  
狭野第上ののり娘の子のの間で情熱的な恋の  
歌が交わされました。

味真野苑では万葉集に収められた  
代表的な 15 首が歌碑に刻ま  
れています。水芭蕉、牡丹、藤、花菖  
蒲、萩と四季折々に咲く花ととも  
に、万葉ロマンにひたることができ  
ます。

味真野小学校の校庭の真ん中に  
樹齢 130 年余りの桜の木がありま  
す。桜の見頃にはライトアップさ  
れ、校庭に自由に入ることができます。



越前万歳（国民民俗文化財）<sup>①</sup>

味真野地区に伝わる越前  
万歳まんざいは古くから伝えられた国  
指定の重要無形民俗文化財  
で、日本三大古典万歳のひとつ  
です。毎年 1 月 1 日に味真  
野神社で初舞が行われます。

古くから新年を祝い、家々  
を訪れて祝事を述べ、家内安  
全を祈願し奉納する祝福芸と  
してもはやされました。現  
在は地元の保存会を中心に地  
区を挙げての継承活動が続け  
られています。



あじまの万葉まつり（毎年 5 月 3～4 日開催）<sup>②</sup>



治左川のバイカモの群生<sup>③</sup>

毎年 5 月に味真野苑周辺を会場に開催される「あ  
じまの万葉まつり」では、万葉時代の衣装を着た行列  
が町中を練り歩く「万葉行列」が行われ、華やかな時  
代絵巻が再現されます。

味真野地区は清らかな水が湧き出すことで有名で  
す。上真柄町の治左川は新鮮な地下水がしみだし、年  
間通じて 13 度の水温を保ち、群生する水草のバイカ  
モが 6～8 月にかけて可憐な花を咲かせます。





# コウノトリ舞う里山よふたたび しらやま 白山・坂口

越前市白山・坂口地区

「くちばしのおれたコウノトリ」という絵本の舞台「白山・坂口地区」は、四方を山に囲まれたのどかで美しい自然が広がる農村だ。コウノトリが戻ってくるように…、みんなで応援したい。



里山風景（坂口地区 勾当原町）<sup>①</sup>



ため池（白山地区 黒川町）

越前市西部に位置する白山・坂口地区は、標高 300m 前後の里山に囲まれた小盆地で、「にほんの里 100 選」にも選ばれた昔ながらの農村風景が残っている地域です。

自然の湧水と小さな浅いため池が谷あいの上流部とその周囲に点在し、絶滅危惧種のアベサンショウウオをはじめ、希少野生生物が生息する自然の宝庫です。



コウノトリを呼び戻す農法部会の作業風景<sup>②</sup>



白山地区 安養寺町の伝統的民家

地域の人たちや農業者などが、自然再生活動や生き物と共生する農法に取り組み始めたところ、平成 22 年 4 月 1 日に 2 羽のコウノトリが白山地区に 40 年ぶりに舞い降り、このうち 1 羽は越前市に 107 日間長期滞在して「えっちゃん」の愛称で親しまれました。

白山地区の安養寺町では、かつて集落内に多く自生していた「さぎ草」を守り育てる活動を平成 12 年から開始し、さぎ草自生地の復元と住民によるさぎ草の鉢植え栽培に取り組んでいます。



さぎ草<sup>③</sup>



アベサンショウウオ<sup>④</sup>



コウノトリの「えっちゃん」<sup>⑤</sup>





# ふくいく 馥郁たる香り 越前水仙

福井市越廼地区、越前町越前地区、南越前町河野地区など

雪降る海岸段丘に凜として咲き誇る越前水仙。江戸時代の俳人かがのちよじよは「水仙の香やこぼれても雪の上」と詠んだ。健気で可憐な花の芳香は灰かに甘く漂う。



一面に咲く水仙の花（越前町梨子ヶ平）

冬の越前海岸を美しく彩るものとして、12月中旬から2月上旬にかけて開花する越前水仙の群生は代表的な景観です。このあたりは、房総半島、淡路島に並ぶ日本水仙の三大



越前海岸の冬の風物詩「波の花」

群生地の一つで、海岸段丘を利用した山麓畑に栽培されています。越前水仙は別名「雪中花」と呼ばれ、可憐な花が雪の中、寄り添うように咲くことを表現したものだと考えられます。

越前水仙の歴史は古く、室町時代の古文書に将軍家に毎年水仙が献上されたという記述があり、既にこの頃、福井県での水仙栽培がうかがえます。安土桃山時代以降は生け花や茶花として、江戸時代には着物や



水仙まつり①



水仙が栽培されている棚田（越前町梨子ヶ平）



岩に打ち寄せる冬の荒波②

美術工芸のデザイン、俳句の題材等として親しまれてきました。毎年1月中旬から下旬にかけて「水仙まつり」が開催され、多くの人々が訪れます。

また、「波の花」は、冬の海岸沿いで時おり見られるもので、岩に打ち寄せられた波が、白い泡状になる現象のことです。日本海側から吹き付ける冬の季節風が創り出す厳しい自然の象徴で、強風にあおられて舞う白い泡はとても神秘的です。

越前岬の北側にある集落、梨子ヶ平には日本の棚田百選に選ばれた千枚田があり、越前水仙が栽培されています。

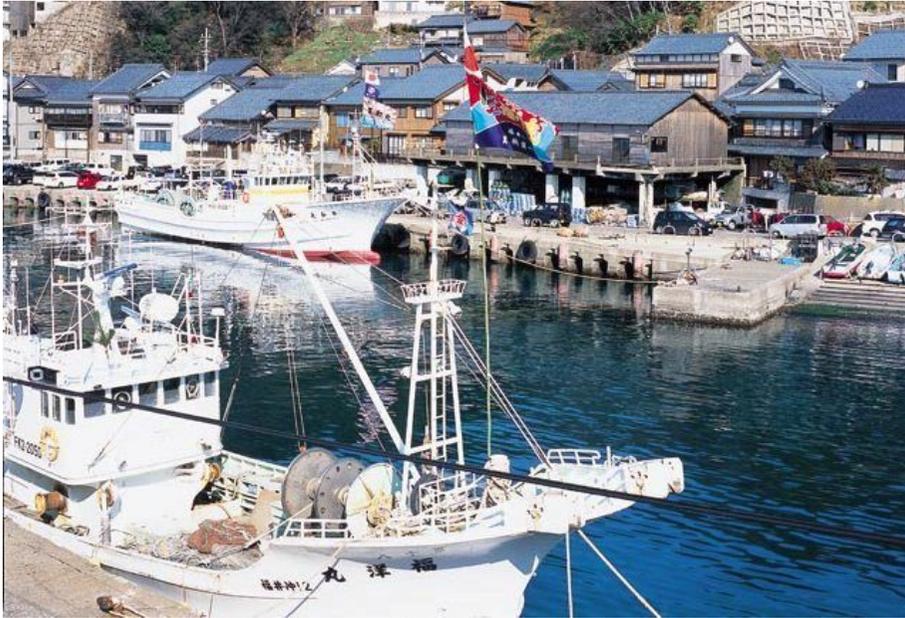




## かまゆ 釜茹での湯気立つ 越前がにの水揚げ港

ここのま 越前町小樽、坂井市三国町 宿 など

船上冷凍をしない越前がにの水揚げ港では、熱湯をたぎらせた大釜で新鮮な越前がにを茹でる。立ち上がる熱気の中から現れた鮮やかな朱色の越前がに。凍てつく寒さなのに頬が緩む。



越前漁港と漁師町の風景（越前町小樽）

県内には多くの漁港と漁村集落が存在していますが、その代表的なものとして、越前海岸沿いの越前漁港があります。海と山に挟まれた国道 305 号沿いには民家や旅館、鮮魚店などがひしめきあうように軒を連ね、漁師町らしい景観が続きます。越前がに漁のシーズンである毎年 11 月 6 日から 3 月 20 日までの期間は、漁師町はさらに活気づきます。

毎年皇室に献上される越前がにには三国港で水揚げされており、威勢のいいセリの光景や辺りに立ちこめるカニの釜茹での湯気は、越前海岸の冬の風物詩となっています。



越前がにの釜茹での光景

越前海岸は日本海に沈む夕陽の名所でもあり、いくつものビューポイントがありますが、三国サンセットビーチは絶好のスポットの一つです。

また、毎年 3 月末から 10 月にかけて越前海岸沖で操業するイカ釣り漁船が放つ漁火は、まるで時間が止まってしまったような静けさを感じさせる景観です。



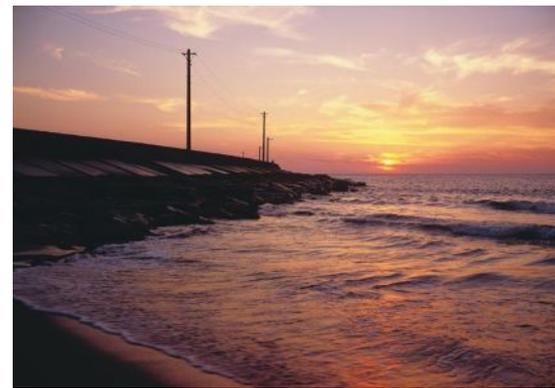
越前がにのセリの光景（越前町大樽）①



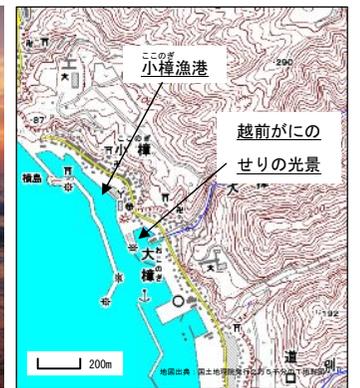
三国港に水揚げされた越前がに（坂井市三国町宿）②



イカ釣り漁船が放つ漁火（越前町厨）③



三国サンセットビーチに沈む夕陽（坂井市三国町宿）





# 日本海の荒波が造った奇岩・奇勝 越前海岸

福井市鷹巣地区、越前町四ヶ浦地区など

自然のエネルギーが創り出した越前海岸の造形美、いつ訪れても目を奪われる。呼鳥門はドキドキしながらぐり抜けてみるのがよい。近づくほどに自然の迫りに圧倒される。



呼鳥門（越前町梨子ヶ平）

越前海岸は、典型的なリアス（沈降）式海岸の若狭湾とは対照的に、甲斐城断層を境とした隆起海岸です。そのため日本海の激しい波浪を受けて、呼鳥門に代表される奇岩や、鳥糞岩のような海蝕崖が自然の力でつくられています。



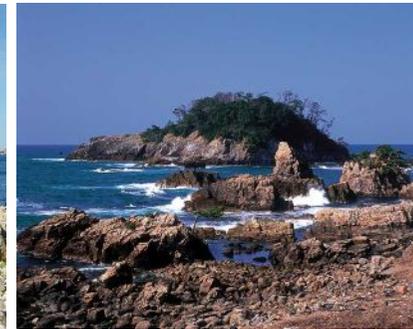
鳥糞岩（越前町梨子ヶ平）①

呼鳥門は、風と波の浸食で生まれた自然の大トンネルで、間近で迫力満点の自然美を体感できます。

呼鳥門のすぐ南には高さ約100mの大断崖、鳥糞岩が海にせり出しています。断崖の先端部が、海鳥のフンのために白くなっていることからこの名がつけました。



柱状節理が発達した銚島（福井市南管生町）



亀島（福井市松蔭町）

その他、奇岩の代表的なものとして、ほぼ同じ大きさの岩が二股に分かれている越前町梅浦の双見ヶ岩、柱状節理の発達した福井市南管生町の銚島、亀の形に似た福井市松蔭町の亀島などがあります。福井市の鷹巣地区から越前町の四ヶ浦地区あたりまでは、越前海岸の特徴的な奇岩・奇勝の景観が続きます。

また、越前海岸は日本海に沈む夕陽の名所でもあり、露天風呂に入りながらゆっくり眺める夕陽は時を忘れるほどの美しい眺めです。



島の御恵比須さんと呼ばれている双見ヶ岩（越前町梅浦）



露天風呂から見る日本海に沈む夕陽（越前町厨）②